



Sun Blade™ X6440 サーバーモジュール ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5321-10、改訂 A
2008 年 8 月

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書で説明している製品に搭載された技術の知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Solaris、Sun Blade、docs.sun.com、Sun Fire、および Solaris ロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Windows は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴは、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

Sun Blade X6440 サーバーモジュール ご使用にあたって

本書では、Sun Blade™ X6440 サーバーモジュールに関する最新情報と注意事項を説明します。

本書では、次の項目について説明します。

- 「一般的な情報」 (2 ページ)
- 「Sun Blade X6440 サーバーモジュール Tools & Drivers DVD」 (3 ページ)
- 「ファームウェアの最新のアップデート」 (4 ページ)
- 「ハードウェアと BIOS の注意事項」 (4 ページ)
- 「Sun Installation Assistant の注意事項」 (5 ページ)
- 「Integrated Lights Out Manager の注意事項」 (5 ページ)
- 「診断の注意事項」 (9 ページ)
- 「オペレーティングシステムの注意事項」 (10 ページ)
 - 「Solaris の注意事項」 (10 ページ)
 - 「Linux の注意事項」 (11 ページ)
 - 「Windows の注意事項」 (13 ページ)
- 「Sun StorageTek RAID 拡張モジュール (REM) の注意事項」 (14 ページ)
- 「LSI RAID 拡張モジュール (REM) の注意事項」 (14 ページ)

一般的な情報

Sun Blade サーバーモジュールのサポート

Sun Blade X6440 サーバーモジュールのサポート情報は、次の Web サイトに公開されています。

<http://www.sun.com/servers/x64/x6440/support.xml>

サポートされているオペレーティングシステム

次に、Sun Blade X6440 サーバーモジュールでサポートされているオペレーティングシステムの最低バージョンの一覧を示します。

- Solaris 10 5/08
- RHEL 4.6 32 ビット版/64 ビット版
- RHEL 5.1 64 ビット版
- SLES 9 SP4 64 ビット版
- SLES 10 SP2 64 ビット版
- VmWare ESX 3.5 U1
- Windows 2003 Enterprise 32 ビット版/64 ビット版
- Windows 2008 Enterprise 32 ビット版/64 ビット版

ドキュメント

Sun Blade X6440 サーバーモジュールのサポートドキュメントは次のとおりです。

- 『Sun Blade X6440 サーバーモジュール設置マニュアル』 (820-5306)
- 『Sun Blade X6440 サーバーモジュールご使用にあたって』 (820-5321)
- 『Sun Blade X6440 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド』 (820-5311)
- 『Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』 (820-5316)
- 『Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』 (820-3357)

- 『Sun Blade X6440 サーバーモジュールご使用の手引き』 (820-5336)
- 『Sun Blade X6440 サーバーモジュール用 Sun Integrated Lights Out Manager 補足ドキュメント』 (820-5331)
- 『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』 (820-2698)
- 『Sun Blade X6440 Server Module Service Manual (Sun Blade X6440 サーバーモジュールサービスマニュアル)』 (820-3964)
- 『Sun Blade X6440 Server Module Safety and Compliance Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュール安全の手引き)』 (820-4412)

上記およびその他の Sun Blade サーバーモジュール関連ドキュメントは、<http://docs.sun.com> からダウンロードできます。

Sun Blade X6440 サーバーモジュール Tools & Drivers DVD

Sun Blade X6440 サーバーモジュールの Tools & Drivers DVD には、Sun Blade X6440 サーバーモジュール用のソフトウェアアプリケーションとユーティリティーが収録されています。この節では、これらのアプリケーションとユーティリティーについて説明し、それぞれの実行手順が記載されている README テキストファイルの場所を示します。

- **ILOM SP update (ILOM SP アップデート):** SP ファームウェアのアップデートに使用します。README テキストファイルは、<DVD ドライブ>:\remoteflash\Firmware_Update.txt にあります (このユーティリティーは、1.0 リリースでは使用できません)。
- **SP recovery utility (SP リカバリユーティリティー):** 破損した SP ファームウェアの復旧に使用します。README テキストファイルは、<DVD ドライブ>:\SPrecovery\SPrecovery.txt にあります (このユーティリティーは、1.0 リリースでは使用できません)。
- **Create a Windows 2003 OS Installation CD (Windows 2003 OS インストール CD の作成):** Reburn CD (必要なすべてのドライバを収録した W2K3 CD) の作成に使用します。README テキストファイルは、次の場所にあります。<DVD ドライブ>:\utilities\reburn\readme.txt

注 - このユーティリティーは、Windows ベースのシステムでも、Linux/Solaris ベースのシステムでも実行できます。

- **Windows Autorun menu (Windows 自動実行メニュー):** Tools & Drivers DVD を X6440 の USB CD/DVD ドライブに挿入するか、ILOM の RKVMS を使用してマウントします。次に、次のいずれかの操作を実行します。
 - Windows サーバードライバのインストール
 - Windows Reburn CD の作成
 - sun.com および関連ドキュメントのリンクへのアクセス
- **Solaris/Linux post OS driver update (Solaris/Linux ポスト OS ドライバアップデート):** Intel Ethernet ドライバと AST2000 ドライバをアップデートする際に使用します (必要な場合)。install.sh スクリプトファイルは、次の場所にあります。
 - <DVD ドライブ>:\drivers\linux\red_hat\install.sh
 - <DVD ドライブ>:\drivers\linux\suse\install.sh
 - <DVD ドライブ>:\drivers\linux\sx86\install.sh.

ファームウェアの最新のアップデート

Sun Blade X6440 サーバードライバの Tools and Drivers DVD v1.0 には、BIOS およびサービスプロセッサのファームウェアが収録されていません。最新のファームウェアを入手するには、www.sun.com を参照してください。

ハードウェアと BIOS の注意事項

次の注意事項は、Sun Blade X6440 サーバードライバのハードウェアと BIOS に関するものです。

- 「[ILOM BIOS 設定の注意事項](#)」 (4 ページ)
- 「[ILOM IP アドレスが更新されない](#)」 (5 ページ)

ILOM BIOS 設定の注意事項

DHCP 割り当て IP アドレスを使用するように ILOM が設定されているときに DHCP サーバードライバがオフラインの場合は、DHCP サーバードライバがオンラインになるまで待ってからリブートを行ってください。リブート命令を発行したり、DHCP から静的 IP アドレスに手動で変更したりすると、ゲートウェイと IP アドレスの不適切な設定が記録されます。DHCP が復元されると、元の IP アドレスが割り当てられます。

対処方法

DHCP が復元されるまでサーバードライバをリブートしないでください。または、ILOM に緊急にアクセスする必要がある場合は、端末をシリアルコンソールのネットワーク管理ポートに接続し、手動で静的 IP アドレスを割り当ててください。

ILOM IP アドレスが更新されない

ILOM IP アドレスを BIOS の LAN 構成で変更した場合、ILOM IP アドレスは更新されません。古い IP アドレスが表示されます。IP アドレスは、ILOM で変更することをお勧めします。

ILOM IP アドレスを BIOS で変更した場合は、LAN 構成画面をいったん終了してから再び表示し、変更を確認してください。

Sun Installation Assistant の注意事項

Sun Installation Assistant (SIA) は、現時点では Sun Blade X6440 サーバーモジュールで使用できません。

Integrated Lights Out Manager の注意事項

次の注意事項は、Sun Blade X6440 サーバーモジュールの Integrated Lights Out Manager サービスに関するものです。

- 「サポートされている最低バージョンのブラウザ」(6 ページ)
- 「パスワードの文字数が制限を超えても警告が生成されない」(6 ページ)
- 「KVMS 認証機能がリモート認証メカニズムと連携しない」(6 ページ)
- 「Solaris リモートコンソールセッションに Java プラグインが必要」(7 ページ)
- 「サービスプロセッサが起動するまで 3 分かかることがある」(8 ページ)
- 「サービスプロセッサの起動時にエラーメッセージが表示される」(8 ページ)
- 「HDD ドライブの FRU データが impitool 経由で渡されない」(8 ページ)
- 「impitool セッションの info all コマンドがエラーになる」(9 ページ)

ILOM の詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーガイド』(820-2698)を参照してください。

サポートされている最低バージョンのブラウザ

表 1 に、Solaris および Linux オペレーティングシステムで、Sun Blade X6440 サーバーモジュールの ILOM (Integrated Lights Out Manager) Web インタフェースを実行できるブラウザの最低バージョンを示します。

表 1 ブラウザのバージョン番号

	Solaris X86	RHEL 32 ビット版	RHEL 64 ビット版	SLES 32 ビット版	SLES 64 ビット版	Windows
Mozilla	1.7	1.7.12	1.7.13	1.7.8	1.7.13	N/A
Firefox	1.5.0.4	1.0.7	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4
Internet Explorer	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	6

パスワードの文字数が制限を超えても警告が生成されない

ILOM Web インタフェースで 17 文字以上のパスワードを使用してもエラーや警告が生成されません。

対処方法

この問題は、ILOM ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

KVMS 認証機能がリモート認証メカニズムと連携しない

RADIUS、LDAP、Active Directory などのいずれのリモートユーザー認証メカニズムを使用しても KVMS セッションのユーザー認証を実行できません。

対処方法

この問題は、ILOM ファームウェアの今後のリリースで解決される予定です。

Solaris リモートコンソールセッションに Java プラグインが必要

Solaris システムでリモートコンソールセッションを開始すると、javaRKVM.jnlp ファイルに関する指示を求めるメッセージが表示されます。その場合、次の 2 つのオプションがあります。

- **root** としてログインしている場合は、デフォルトのアプリケーションを使用してこのファイルを開きます。
または
- **root** ではなくユーザーとしてログインしている場合は、次の手順を実行します。
 1. ファイルを保存するオプションを選択します。
 2. javaRKVM.jnlp ファイルをダウンロードして手動で実行します。
ダウンロードマネージャにより、このファイルの場所が表示されます。
 3. javaRKVM.jnlp ファイルを /tmp ディレクトリに移動します。
% **mv /javaRKVM.JNLP の場所/javaRKVM.JNLP /tmp**
javaRKVM.JNLP の場所には、javaRKVM.JNLP が保存されているディレクトリを指定します。
 4. 端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、javaws アプリケーションの場所を検索します。
% **which javaws**
 5. 端末ウィンドウから次のコマンドを実行します。
% **/javaws の場所/javaws /tmp/javaRKVM.JNLP**
javaws の場所には、javaws が保存されているディレクトリを指定します。
例:
javaws アプリケーションを /usr/bin ディレクトリから実行する場合、次のように入力します。
% **/usr/bin/javaws /tmp/javaRKVM.JNLP**
これで、リモートコンソールセッションが開きます。

リモートコンソールウィンドウを閉じると、/tmp/javaRKVM.jnlp が削除されます。

サービスプロセッサが起動するまで 3 分かかることがある

サーバーブレードを挿入したり、サービスプロセッサ (SP) をリセットしたりすると、SP は起動するまでもっとも遅い場合は 3 分もかかってしまうことがあります。この間、SP は機能しません。

サービスプロセッサの起動時にエラーメッセージが表示される

サービスプロセッサ (SP) の起動時に、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Mike driver.  
insmod: cannot insert  
'/lib/modules/2.6.15.4/misc/mtd_mike/mike.ko': No such device  
(-1): No such device  
modprobe: failed to load module mike
```

この問題は現在調査中です。このメッセージは無視してかまいません。

HDD ドライブの FRU データが impitool 経由で渡されない

HDD ドライブの FRU データは、impitool 経由で渡されません。たとえば、次のエラーメッセージが表示されます。

```
FRU Device Description : HDD0 (ID 24)  
Device not present (Requested sensor, data, or record not found)  
  
FRU Device Description : HDD1 (ID 25)  
Device not present (Requested sensor, data, or record not found)
```

対処方法

この問題は、ILOM/BIOS の今後のリリースで解決される予定です。

impitool セッションの info all コマンドがエラーになる

impitool セッションの info all コマンドはエラーになります。たとえば、次のエラーメッセージが表示されます。

```
impitool -H 129.148.53.83 -U root -P changeme session info all
Get session Info command failed
```

対処方法

この問題は、ILOM/BIOS の今後のリリースで解決される予定です。

診断の注意事項

次の注意事項は、Pc-Check 診断ソフトウェアバージョン 6.20 に関するものです。

この節では、次の注意事項について説明します。

- 「ハードディスク情報が不明になる」(9 ページ)
- 「シリアルポートのテストが失敗する」(9 ページ)

ハードディスク情報が不明になる

Pc-Check でハードディスクの診断を実行すると、ハードディスク情報、ハードディスクのファームウェア、およびシリアル番号が不明と表示されます。

シリアルポートのテストが失敗する

Pc-Check では、RJ-45 シリアルポートコネクタをサポートしていないため、シリアルポートのテストが失敗します。

オペレーティングシステムの注意事項

この節では、次の項目について説明します。

- 「Solaris の注意事項」 (10 ページ)
 - 「起動時に警告メッセージが表示されることがある」 (10 ページ)
- 「Linux の注意事項」 (11 ページ)
 - 「Red Hat 5.1 で報告される USB デバイスエラー」 (11 ページ)
 - 「PCI-E 拡張モジュール (PEM) をホットプラグ接続できない」 (11 ページ)
 - 「PCI BIOS エラーメッセージが表示されることがある」 (12 ページ)
 - 「IGB エラーメッセージが表示されることがある」 (12 ページ)
 - 「SLES 9 SP4 がインストールまたは起動中にハングする」 (12 ページ)
 - 「SLES 10 OS の dmesg でエラーメッセージが表示されることがある」 (13 ページ)
- 「Windows の注意事項」 (13 ページ)
 - 「Windows Autorun によってドライバがインストールされない」 (13 ページ)
 - 「Windows のデバイスマネージャに黄色の疑問符が表示されることがある」 (13 ページ)

サポートされているオペレーティングシステムの最低バージョンについては、「[サポートされているオペレーティングシステム](#)」 (2 ページ) を参照してください。

Solaris の注意事項

注 – Sun Blade X6440 には、Solaris OS がプリインストールされています。この OS は、デフォルトでシリアルコンソール接続 (ttya) を介してリダイレクトされるように設定されています。これをローカルモニター / キーボードに変更するには、起動時に GRUB メニューを使用して VGA オプションを選択します。

起動時に警告メッセージが表示されることがある

コンパクトフラッシュデバイスを使用しているときは、Solaris の起動時に次の警告メッセージが表示される場合があります。

```
WARNING: /pci@0,0/pci-ide@4/ide@0 unable to enable write cache
targ=0
```

このメッセージは無視してかまいません。

Linux の注意事項

次の注意事項は、サポートされている Red Hat または SUSE オペレーティングシステムを実行している Sun Blade X6440 サーバーモジュールに関するものです。

Red Hat 5.1 で報告される USB デバイスエラー

Sun Blade X6440 サーバーモジュールの USB ポートに USB デバイスを差し込むと、次のエラーが生成されます。

```
usb 1-2; device not accepting address 2, error -71
```

これは、Red Hat Linux の問題です。

対処方法

現在のインストールで、新しい `initrd.img` ファイルを手動で作成する必要があります。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. `/boot` ディレクトリに移動します。

```
cd /boot
```
3. 次のコマンドを入力して、`initrd.img` ファイルの名前を変更します。

```
mv initrd-<バージョン>.img initrd-<バージョン>.img.save
```
4. 次のコマンドの入力して、新しい `initrd.img` ファイルを作成します。

```
mkinitrd initrd-<バージョン>.img <uname - r>
```
5. 変更を有効にするために、サーバーモジュールをリブートします。

PCI-E 拡張モジュール (PEM) をホットプラグ接続できない

デフォルトでは、「`acpiphp`」モジュールはカーネルに読み込まれません。

対処方法

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力します。

```
modprobe acpiphp
```
3. いずれかのスロットに PEM を挿入し、`Attn` ボタンを押します。
PEM が使用できるようになると、`OK LED` が緑になります。

PCI BIOS エラーメッセージが表示されることがある

RHEL 5.1 で `dmesg` コマンドを実行すると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
PCI: BIOS Bug: MCFG area at e0000000 is not E820-reserved
PCI: Not using MMCONFIG.
```

このメッセージは無視してかまいません。

IGB エラーメッセージが表示されることがある

`dmesg` で次の IGB エラーメッセージが表示される場合があります。

```
igb: 0000:84:00.1: igb_set_interrupt_capability: Failed to
initialize MSI-X interrupts.
Failing back to MSI interrupts.
igb: 0000:84:00.1: igb_set_interrupt_capability: Failed to
initialize MSI interrupts.
Failing back to legacy interrupts.
```

内蔵 Intel 82575EB ネットワークインタフェースカード (NIC) は共に機能していません。このメッセージは無視してかまいません。この問題は現在調査中です。

SLES 9 SP4 がインストールまたは起動中にハングする

4 GB 以上の RAM を搭載しているシステムでは、SLES 9 SP4 がインストールまたは起動中にハングします。クアドコア AMD Opteron プロセッサと 4 GB 以上の RAM を搭載しているシステムでは、SLES9 SP 4 (カーネル 2.6.5-7.308) は正常にインストールされますが、インストール後の最初の起動時にシステムがハングします。

対処方法

この問題は、次の手順によって解決できます。

1. 一時的にメモリーを 4 GB 未満に制限します。

これを行うには、RAM を実際に取り外して、4 GB 未満にします。または、ブートパラメータを使用して、SLES が使用するメモリーを制限することもできます。ブートパラメータは `mem=nnnn` で、`nnnn` を 4000 未満の数値にします。

2. バージョン 2.6.5-7.311 以上への最新のカーネルアップデートをインストールします。

システムのインストール時に上の方法を使用してメモリーを制限すると、カーネルをアップデートしてフル容量のメモリーを使用できるようになります。このカーネルアップデートとアップデートのダウンロード方法については、<http://support.novell.com/techcenter/psdb/436375e56cfcb119e5e42c29cf234297.html> を参照してください。

SLES 10 OS の dmesg でエラーメッセージが表示されることがある

SLES 10 SP2 64 ビット版 OS の dmesg を実行すると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Evaluate _OSC Set fails.Status = 0x0005 aer_init: AER service init  
fails - No ACPI_OSC support aer: probe of 0000:00:0a.0:pcie01  
failed with error 1
```

対処方法

この問題は現在調査中です。

Windows の注意事項

Windows Autorun によってドライバがインストールされない

Windows Autorun によってドライバがインストールされないことがあります。これは、Windows ユーザーアカウント制御がオンに設定されている場合です。

対処方法

1. Windows ユーザーアカウント制御をオフにします。
2. システムをリブートして、変更を有効にします。
3. Windows Autorun を実行してドライバをインストールします。

Windows のデバイスマネージャに黄色の疑問符が表示されることがある

Windows のデバイスマネージャに黄色の疑問符が表示されたときは、次のデバイスのドライバがインストールされていない可能性があります。

- Sun Blade ストレージ SCSI 格納装置デバイス
- Sun NEM Plus SCSI 格納装置デバイス

対処方法

Windows Update を実行して、必要なドライバをインストールします。

Sun StorageTek RAID 拡張モジュール (REM) の注意事項

StorageTek BIOS セットアップユーティリティーを使用する

StorageTek SAS コントローラに接続されたハードディスクドライブをオペレーティングシステムで使用できるようにするには、まず StorageTek BIOS セットアップユーティリティーを使用してドライブを初期化し、アレイを作成する必要があります。StorageTek BIOS セットアップユーティリティーにアクセスするには、サーバーブロードの P.O.S.T 中に Ctrl + A キーを押します。

LSI RAID 拡張モジュール (REM) の注意事項

ミラー RAID 構成にアップグレードするときは、ハードディスクドライブの特別な空き領域が必要

ミラー RAID 構成にアップグレードする場合は、ハードディスクドライブの最後にパーティション分けされていない 100 MB の空き領域が必要です。

データのマージをサポートするアップグレードパス

データのマージをサポートするアップグレードパスは、シングルディスクからミラーへのアップグレードだけです。これは LSI カードの制限です。シングルディスクから IME (Integrated Mirror Extension) または IMS (Integrated Mirror Stripe) にアップグレードすると、データと OS が失われるため、再インストールと復元が必要になります。